



ごみの出し方にマナーがあるのはどうして

わたしたちの暮らしを守るため

あなたは、ごみを捨てるときには、どうしてですか。何も考えないで、ぽいと捨ててはいませんか。今、日本では、ごみがあふれ、捨てる場所に困っているのです。いくら大型のごみ捨て場を造っても、すぐにいっぱいになってしまいます。ごみを上手に捨てることは、わたしたちの暮らしや生活環境を守るのに、とても大切なことです。

そのためには、ごみの出し方のルールを守って、むだなごみを出さないようにすること、資源として使えるごみは、回収に協力することなどが必要なのです。

ごみの出し方の基本は、きれいにして出すこと、安全にして出すこと、小さくして出すこと、ルールを守って出すことの4つです。

生ごみなどの燃えるごみは、水気をよく切ってから出します。食用油などは、牛乳の空きパックにぼろ布や新聞をつめ、その上に油を流しこんで、ごみに出すようにします。

ダンボールは、小さくたたんでから、出すようにします。

燃えないごみの捨て方のポイント

びん・かん・プラスチックなどの燃えないごみは、さらに注意が必要です。

これらは、必ず水洗いして、出しましょう。ガラスなどのような危険なものは、新聞紙などでくるみ、ふくろの外側に、「われもの」「きけん」などと書いておきます。爆発のおそれのあるスプレーかんなどは、中身を全部出してから、かんに穴をあけて出します。

燃えるごみと燃えないごみは、できるだけ分けるようにし、分けられない場合は、燃えないごみに出すようにします。（監修・田代 脩）

